研究課題　香川県下所在の中世史料の調査と史料学的研究

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　守田逸人（香川大学）

　所内共同研究者　井上聡

　所外共同研究者　田中健二（香川大学名誉教授）・橋詰茂（徳島文理大学元教授）

研究の概要

（１）課題の概要

　香川県下に所在する中世文書は、一九九〇年に刊行された『香川県史　第八巻　古代・中世史料』の編纂を機に、網羅的な収集・調査が行われた。しかし、その後三〇年あまりの時間が経過し、新たな史料が確認されたり、その後の研究の進展等に伴い再び全体の調査が必要になった文書群も少なくなくない。  
とくに、香川県下の中世文書で最大の規模を誇る善通寺文書は、史料編纂所においても、また香川県現地においても中世文書の全貌や、近世文書等も含めた文書群全体の性格も把握できておらず、日本列島を代表する地方有力寺院としては研究史的に全くの盲点となってきた。  
本共同研究では、史料編纂所の採訪活動とも連携しながら、善通寺文書を中心に香川県下の中世文書原本の調査・再調査を行うことで、未発掘史料の調査・研究およびその公開、既知の文書群の再評価等の研究を進める。同時に、香川県下の中世史料の全体像を把握し、史料編纂所と地域で史料情報の共有化を図っていくことを目指した。

（２）研究の成果

　本一般共同研究では、香川県下の中世文書のうち、塩飽勤番所所蔵文書と、とくに県下で最も大きな規模を誇る善通寺文書に焦点を充てて調査・撮影を行ってきた。  
その結果、善通寺文書については、これまで所在が明確でなかった多くの史料を再発見することができた。また、これまで全く研究がなかった善通寺文書の文書群の性格についても、多くの知見を得ることが出来た。  
さらに、昨年度末に行った調査ではこれまで全く知られていなかった中世聖教類の一群も発見できた。それらについては、二〇二一年度の調査では具体的な調査・撮影に至らなかったため、今後引き続き調査・撮影を行う必要があると考えている。そして、それらの作業を経て善通寺文書全体のあり方について総合的に分析を行い、報告書等の成果報告を計画している。